



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。



2012/07

六月二十三日 (土) くもり ☺

今日は、とても楽しみにしていた「日本水産百年史ができるまで」の講演日でした。

講師は日本水産株式会社の総務広報部に所属し、元編纂室室長だった大田吉一さんです。講演は密度の濃い九〇分間。日本水産（ニッスイ）の歴史の紹介のあと、編纂事業をはじめた二〇〇七年から二〇一一年五月発行に至るまでの道のりを、さまざまなエピソードを交えながら伺うことができました。

じきに巻もデビューリース、続けます！

史実に基づく一次資料の探求で当館や他の施設に何度も足を運んだこと、三百名もの関係者への取材、東日本大震災が起きて印刷のために用意していた紙が使えなくなってしまったこと、編纂方針や、その工程、スケジュールまで多岐に渡って話してくださいました。

その言葉の一つ一つが社史編纂にたずさわった当事者だからこそ語れる内容で、産業史・経営史という軸から離れないようにしながら、長い歴史を歩んでいる会社で働いていた方々の人生を綴る

ために、奔走された姿が目に浮かぶ様でした。

社史の刊行だけでなく、収集した貴重な資料などを公開・展示するために当初は計画していなかったニッスイパイオニア館を新しく北九州市にオープンしたことや、『日本水産百年史』が海外でも高い評価を得たことから現在は英語版も製作中ということでした。

一企業の社史という役割だけでなく日本の水産業の歴史を細部まで知ることができる資料となった『日本水産百年史』の世界は、常に広がり続けているのだと知りました。

(裏面につづく)

講演「日本水産百年史」がじきに巻もデビュー

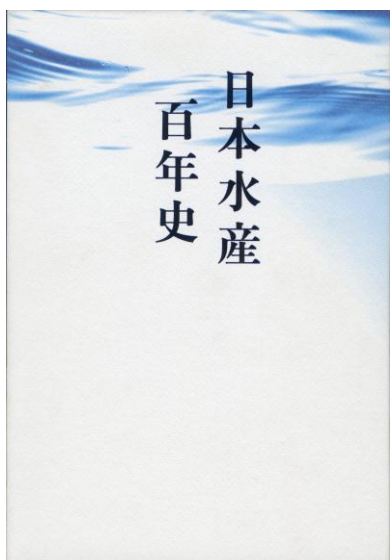
# 社史グランプリ表彰式を行いました。

そして自分のことを思い返してみると、仕事柄、社史を手に取る機会が多いのですが、資料として扱っているだけで、今回の講演で伺ったような作りの思いにまでは気が回っていません。ことに気づき、よりいっそう社史の「重み」を感じるようになりました。

「今までの百年の歴史をこれからの会社の百年につなげていきます。」と朗々とお話ししてくださいました。大田さんの笑顔が特に印象に残り、新たな社史の奥深さを知ることができた大切な一日となりました。

おさかなソーセイジも、これまで以上に味わって食べています。

(科学情報課・小池)



●本編・史料の2冊組、合計九百ページ近い労作です。

おかげさまで大盛況のうちに幕を閉じた「みんなが選ぶ社史グランプリ」東西図書館投票（神奈川県立川崎図書館・大阪府立中之島図書館共催）。

当初、このイベントで賞状等の授与などを行う予定はありませんでしたが、あまりに反響が大きく、急遽、グランプリ（両館合計で最多得票）を獲得した社史『アサヒビル120年のあゆみ』に対して、表彰式を行うことになりました。

7月10日、アサヒグループホールディングス株式会社理事 資料室長の中井正史氏（写真奥）をお招きし、展示会場にて当館館長（写真手前）より、大阪府立中之島図書館館長との連名での賞状が授与されました。

◎

投票にノミネートした社史を発行されたすべての企業様には、両館で投票用紙に記入された「ほめポイント」のコメントを、お伝えしました。今後の何らかのご参考になれば幸いです。

◎



本号の紙面で紹介した「日本水産百年史ができるまで」など関連講演も「社史作成に携わった方の生の声を聞ける」など、高い評価をいただきました。今後も年に数回「社史ができるまで」の講演を続けていければと考えています。決まり次第、この「社史」や、当館ホームページ等でお知らせいたします。

(科学情報課・高田)